

〈原著〉

保育所における保護者支援研究の現代的課題

高 橋 真由美 (藤女子大学 人間生活学部 保育学科)

保育所における保護者支援は、児童福祉法や 2008 年改正の現行保育所保育指針に、子どもの保育と同様に保育者の業務として明確に位置づけられている。本稿では、保育所に入所している子どもの保護者に対する支援の歴史的変遷や保護者支援に関する先行研究を概観した上で、保育所における保護者支援の現代的課題について考察した。保育所における保護者支援は、保育所の設立当初から保育士たちによって行われてきたことであるが、時代の変化とともに求められるものが変容し、現代においては多くの保育士が支援にあたり困難感をかかえている。その要因として、子どもや保護者の変化が多くの先行研究で挙げられているが、本稿では保育所における保護者支援にいくつかの二重性が潜んでいることが保護者支援の難しさを生んでいることを示唆している。

キーワード：保育所、保護者支援、保育者の専門性

1. はじめに

児童福祉法では、保育士とは「専門的知識及び技術をもつて、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」(第十八条の四)¹⁾と定義されており、保育士には子どもへの保育のほかに、保護者への支援も業務として求められている。保育所における保護者への支援は、保育所が設立された経緯からみても、設立当初から保育士(保母)達によって行われてきたことである。しかしながら、2008 年に改定された現行の保育所保育指針「第 6 章保護者に対する支援」に、「保育所における保護者への支援は、保育士等の業務であり、その専門性を生かした子育て支援の役割は、特に重要なものである」²⁾と記されたことにより、保護者への支援があらためて保育者の業務として明言化されたのである。保育所保育指針には、保育所に入所している子どもの保護者に対する支援と、地域における子育て中の家庭への支援の両方が保育者の業務として挙げられているが、本稿では保育所に入所している子どもの保護者への支援に焦点をあて、その現代的な課題について考えていく。

2. 保育所における保護者支援とは

(1) 保育所保育指針にみる保護者への支援

保育所保育指針は、1952 年に当時の厚生省が刊行した「保育指針」を基に、1965 年に初めて作成され、通達された。そこから現行の保育所保育指針に至るまでの間、1990 年、1999 年と 2 度の改定を経てきた。亀崎は、保育所保育指針に保護者への支援に関する記述がされたのは、1999 年改定の保育所保育指針からであると指摘している³⁾。この改定では、第 13 章に保育所における子育て支援に関する記述が追加された。しかしながらここに記されているのは、一時保育・地域活動事業・相談助言など、地域の子育て家庭に対する支援についてであり、入所している子どもの保護者への支援について明記されたのは、2008 年改定の現行保育所保育指針からである。

現行の保育所保育指針第 6 章「保護者に対する支援」には、はじめに保護者に対する支援の基本が記され、次いで保育所に入所している子どもの保護者に対する支援と地域における子育て支援のそれぞれについて、その内容や方法が記されている。

保護者に対する支援の基本については、①子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉を重視する、②保護者とともに子どもの成長の喜びを共有する、③保育

士の専門性や集団という環境を生かした支援を行う、④保護者の状況を踏まえ、保護者の養育力の向上に資するように支援する、⑤保護者の気持ちを受け止め、信頼関係を築き、保護者の自己決定を尊重する、⑥子どもの利益に反しない限りプライバシーを尊重する、⑦地域の子育て支援に関する資源の活用、関係機関、団体等との連携を図るという7つのポイントを挙げて説明がなされている⁴⁾。すなわち保護者支援における基本的方針とは、子どもの最善の利益を保障するために、その専門性や集団保育という環境を活かした支援をすることで保護者の養育力の向上に努めること、その支援の際には保護者の状況や気持ちを受け止め、保護者の自己決定やプライバシーを尊重することに留意し、必要に応じて地域資源を利用し、関係機関との連携を図ることなのである。

この基本的な方針を踏まえ、第6章にはさらに保育所に入所している子どもの保護者への支援の内容や方法について記述されている。それによると、保護者への支援は日常の保育と一体に行われる特徴があるとし、日常の子どもの様子や日々の保育の意図を送迎時や会合・行事などでの会話や連絡帳・通信を活用して伝えることにより、保護者との相互理解を図るように努めること、子どもに障害や発達上の課題があったり、保護者に育児不安などが見られる場合には、保護者の希望に応じて個別の支援を行うように努めることが支援の内容や方法として記されている。また保護者の仕事と子育ての両立を支援するため、延長保育、夜間・休日保育、病児・病後児保育などの多様な保育を実施する場合には、保護者の状況に配慮し子どもの福祉が尊重されるようにすることや、保護者に不適切な養育などが疑われる場合の対応についても触れられている⁵⁾。

以上のように、2008年に改定された保育所保育指針によって、それまで各保育所で取り組まれていた保護者への支援は、より組織的に意図的に行うものとして認識され、保育士には、保育の知識や技術に加えて、ソーシャルワークやカウンセリングなどの知識や技術を援用する必要があることが指摘されるようになった⁶⁾。

(2) 保育所における保護者への支援の歴史的変遷

上記のように保護者への支援は2008年の保育所保育指針の改定に伴い、保育士の業務として明確に位置づけられることとなったが、保護者を支援することは、昔から保育所の使命であると認識されていたことが過去の文献から読み取ることができる。

藤野井は、保育所は幼児を通じての家庭の保護者指

導について無関心であることは出来ず、もしこの役目が保育所に織り込まれていなければ、保育所の存在意義は失われるとし、保育所は家庭全般がその事業の対象であるとしている⁷⁾。また戦後、児童福祉法が公布されたのちにも、幼児たちの個性の指導には、各幼児の環境をよくすることが不可欠であるため、家庭の協力を得るように母親に子女教育への関心を持たせることの重要性が説かれたり⁸⁾、保護者の愛情のあり方が乳幼児にとって問題となるとし、温かい愛情を持つように母親の教養を高めることを保育所が乳幼児を通して行わなければならない⁹⁾とされているように、昔から保護者への教育(支援)は保育所保育士(保母)の使命として認識され、実践されてきたのである。森上はこの時代には、教師や保育者の仕事が「子どもへの教育(保育)」と「それ以外のこと」というように分けて捉えられておらず、子どもの家庭に頻繁に訪問したり、地域活動に参加することが教師や保育者によってなされていたとしている。それが昭和40年代(1965年～75年)を境にして、教師や保育者の仕事が学校や園の内部に限定され、決められた時間内に決められた役割を遂行する存在へと変化してきたとし、それ以降、保育者は子どもの保育以外のことを「雑務」としてきた経緯があることを指摘している¹⁰⁾。

金崎は、1976年を起点とする「国連婦人の十年」の動きにより、子どもを生み育てることが不平等や差別の原因になってはならず、子どもを育てるということは婦人と男性と社会全体でかわり合うことであると言われ始めたこと、母子の密室化が問題となり集団保育の意義が問われ、幼児教育に対する国民的関心が高まったことにより、婦人労働者の援助が主な役割と認識されていた保育所が、他の機能を期待されるようになったと指摘している。その上で、1980年代の保育所には、主機能として乳幼児の生命の保全と発達の保障をする「児童に対する機能」、副機能として家庭経済の安定と生活改善を促進する「家庭に対する機能」と労働力の提供と地域連帯意識の高揚のための「社会に対する機能」が求められていくのではないかとしている¹¹⁾。

1985年には、男女雇用機会均等法が公布され、女性の社会進出が進む時代に突入したが、女性は子どもができれば退職して育児に専念するという社会一般の風潮がまだ根強く残るこの時代では、常勤労働者として保育所を利用する保護者は、仕事が続けられるのは保育所のおかげであり、入所できたことは幸いなことであるという感覚をもつ者も多く、保育所への感謝のまなざしや保育所との協力関係があった。土田は、このような状況下においては、保育士は日中の子どもの生

活だけを知っていれば保護者との対話が可能であり、保護者の就業状況からくるニーズよりも、子どものためになるか否かという視点のみを考えた保育を展開すれば良い時代であったことを指摘している¹²⁾。

その後、1989年に合計特殊出生率が1.57となった「1.57ショック」がきっかけとなり、少子化社会への懸念から子育ての問題を社会問題として捉える視点の欠如が指摘され始め、1994年のエンゼルプランにより、「子育て支援」が国の施策として明確に打ち出されることとなった。その後、1999年に新エンゼルプラン、2003年に少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法の公布、2008年に新待機児ゼロ作戦などの、少子化に対する数々の対策がとられてきた。さらに2010年1月には、子育てを「家族や親が担う」とする個人に過重な負担をかけるような従来の考え方から、「社会全体で支えるもの」という考え方への転換として「子ども・子育てビジョン」が閣議決定された。これらの政策に沿う形で、保育所に課せられる役割も多様化し、保護者への支援が保育士の重要な業務として明確に位置付けられることとなったのである。

以上のように、昔から保育所の使命とされてきた保護者への支援であるが、その内容には変容が見られる。戦前の保育所による保護者支援は、支援というよりむしろ「子どもの健全な成長のための保護者の教育」という意味合いが強いように読み取れる。戦後に児童福祉法が公布されたのちにもその意味合いは残っているものの、「母親に子女教育への関心をもたせること」を重視している点を見ると、戦前の「保護者教育」のような直接的指導というよりは、母親の気持ちを子育てに向かわせる必要性を説いている。そういった点では、現在の保護者支援の考えに近いといえることができる。しかしその様子は、昭和40年代頃より変化を見せる。この時代には保護者への支援が保育士の任務であるという意識が薄れはするものの、保護者とのかわりにおいては、戦前に見られた「子どもの健全な成長のための保護者の教育」に近い感覚を保育士たちが持ち、子どもによかれと思うことを、保護者に要求し、それが受け入れられていくという構図があったのではないだろうか。そのような時代を経て、1990年代以降は、少子化問題と相まって、保育所が多様な役割を担うことになった。また家族の形態や保護者の働き方が変容してきたことなどにより、保護者への支援が保育士の重要な責務として明確に位置付けられ、その支援の方法も保育所保育指針によって明記されることとなった。金崎が指摘したように、保育所には、「社会に対する機能」が求められているのである。

3. 保護者支援の困難性

保護者への支援は保育士の重要な業務とされているが、保護者支援には困難が伴うという現場の声や報告も多く見られる。それらの困難を引き起こす要因として、ひとつに子どもが発達障害や問題行動を抱えていることが挙げられる^{13),14),15)}。また、「保護者が自分から話しをしに来てくれない」「疲れているお母さんが多い」「経済状況の格差が大きい」など、保育者により保護者自体の変化が指摘され¹⁶⁾、気になる保護者の特徴として「保育者の話が伝わらない」「しつけや関わり方が気になる」「子どもに対して無関心、放任」「子どもも親や子どもの見方が気になる」「子どもに対して過保護、過干渉」「子どもより自分中心」などが挙げられている¹⁷⁾。

それらの困難性を乗り越え、支援を機能させるために、ソーシャルワークを基盤にした支援の必要性が指摘され¹⁸⁾、「親の気持ちや養育力を理解する」「関係形成とコミュニケーションの方法を具体的に提示し、子どもの成長や変化を言語で伝える」「母親のつらさへの共感と孤独への配慮、ネットワーク構築の手助けをする」「親の自尊心や誇りを尊重し、育児や仕事に対しての承認や評価をする」など具体的な方法も挙げられている¹⁸⁾。

小川は、高学歴・高齢初産母子に対する支援1事例の分析を通して、母親の価値観が変わることで支援が機能していく過程を追い、その際に子どもがより良く変わるプロセスを可視化して示すことや女性としての母親への寄り添いが必要であることを指摘している¹⁹⁾。また木曾は、「気になる子ども」への支援過程について保育士5名に対して聞き取り調査を行い、保育士が「子どものための思いの基盤」を常に持っていること、「保護者との対立」という経験を経て保育士の働きかけが「子どものために理解を求める」から「保護者に合わせる」へ変わっていくこと、さらに「保護者に合わせる」関わりに変わっても保育士は「子どものための思いの基盤」と「保護者に合わせる」の間に葛藤を抱いていると指摘している²⁰⁾。

さらに小川は、子育て課題をもつ母親とそれに関わる保育士へのインタビュー調査により、母親の子育てしている自分以外の側面である「子としての母親」「妻としての母親」の肯定感の向上が育児態度の改善に結びついていること、保育士がタイミングを見て子どもの良いところをのばす提案をすることで母親の子どもへの関わりが変化し、結果的には「子育てしている自分」に肯定感をもつことにつながるプロセスを明らかにしている²¹⁾。

以上の先行研究からは、保育士が支援の困難要因を子どもや保護者の状況にあると認識している場合が多く、それらの困難なケースに向かう時に保育者は、「子どものため」を基盤におきながらも、保護者への共感や保護者の立場になって考えてみることで、保護者との関係を良好なものにし、保護者の養育力向上に結びつけているということがわかる。

4. 保護者支援研究の現代的課題とは

以上、保育士に求められている保護者支援の内容や方法、保護者支援の歴史の変遷、保護者支援に関する先行研究を概観してきた。保護者への支援に求められることやその方法は社会や保護者の状況の変化と共に変容し、現代において、保育士には、その専門性をもって、子どもの保育と同様に保護者への支援を行うことが求められている。しかし現状ではその支援に多くの困難が伴い、保育士たちが試行錯誤しながらその業務に当たっている。

保育所保育指針に、保護者支援の基本方針やその内容と方法が示されているにもかかわらず、現場で働く保育士達からは、保護者への支援が大変であるという声が聞かれる。その大変さとはどこからくるものなのだろうか。そのひとつに、保護者への支援に潜むいくつかの二重性の存在があるだろう。現代では夫婦が持つ子どもの数が少なくなったこととも相まって、子どもの最善の利益を保障することが重要視され、子どもが大切にされる時代である。特に保育所は、「児童福祉法（昭和22年法律第164号）第39条の規定に基づき、保育に欠ける子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」²⁹⁾とその目的が示されていることもあり、保育士は子どもの最善の利益を追求しながら保育を行うことに重きをおいている。しかしながら同時に、保護者ひとりひとりが置かれている状況に配慮し、保護者にとって働きやすい環境を整え保護者の自己実現を保障することも、保育者には求められている。この事と子どもの最善の利益を尊重していくことは、場合によっては相反するものとなりうる。子どもの最善の利益を保障するために、子どものためになることを中心にすえて考えるあまり、保護者へ過度な要求をすることは、保護者の立場から言えば支援どころか迷惑になってしまうかもしれない。逆に保護者のニーズに限りなく応えようとするのが、時には子どもの最善の利益を損なうことにつながることもあるだろう。例え

ば、仕事を休むことができない保護者が子どもの病気を心配して外で遊ぶことに否定的な態度を示すという場面があるとする。子どもの最善の利益を中心に考えると、「外遊びがどのくらい子どもの成長に大切なものなのかわからない親＝困った親」のような思いを抱くことになるだろう。しかしながら、保護者のニーズに応えるということに重きをおけば、「仕事を休めないこと」を受け入れ、何等かの手立てすることになり、場合によっては子どもに不利益となる選択をしなくてはならないことにもなりかねない。この例は少し極端かもしれないが、日常の保育では、これに似た葛藤やジレンマが保育士たちにはあるのではないだろうか。保育所保育指針では、保護者への支援と子どもの最善の利益の尊重という2面のバランスを取りながら保育および保護者への支援に当たることが求められている。この2面のバランスをとることは、そう簡単なものではなく、そこに保護者支援の難しさがあるのではないだろうか。

また保育所という施設が、福祉施設であると共に、乳幼児の教育施設の意味合いも持ち合わせているという二重役割をもつという特色も保護者支援の難しさを引き起こす要因のひとつと考えられる。「福祉」の側面からいうと、保育所は、親と子の生活状況を捉え、その生活の質が向上させることが施設の目的となる。しかしながら、「乳幼児の教育施設」という側面には、乳幼児の成長・発達を保障するという意味合いが強く、福祉の視点にたつ時よりも、親子の生活状況とその質には、重点がおかれなければならないのではないだろうか。さらに保護者支援は言葉の意味からすると保護者を支援することだが、その支援には子どもの成長・発達を保障することも含まれているという、支援対象の二重性を持ち合わせている。保護者の支援をしながらも、その後ろでは常に子どもにとってどうなのかということを考えなくてはならない。このことも保育所における保護者への支援を難しくしている要因であるように思う。

以上のように、保育所における保護者支援に潜むいくつかの二面性が存在することが、支援の困難要因の根底にあるように思われる。現行保育所保育指針が施行されてから7年が経過し、この4月からは「子ども・子育て支援新制度」が本格的に施行され、ますます保護者への支援が重要になってくる今、保護者支援の困難要因の根底にあるものを乗り越えて行う専門性をもった支援とはどのようなものか、社会における親子がおかれている現状、保護者の働き方の問題、保育士の業務内容の実態などを多角的に捉えて考え直していくことが、保育所における保護者支援研究に今、求められていることであるように思う。

引用文献

- 1) 児童福祉法 昭和 22 年 12 月 12 日法律第 164 号
- 2) 厚生労働省 保育所保育指針 平成 20 年告示
- 3) 亀崎美沙子：保育所における保護者支援の歴史的展開—保育所保育指針の分析を手がかりに，保育士養成研究第 31 号，pp 11-20, 2013.
- 4) 厚生労働省編：保育所保育指針解説書，pp 182-186，フレーベル館，2008.
- 5) 同上 p 187
- 6) 同上 p 191
- 7) 藤野井行仁：保育所の使命と其の本領，幼児の教育，pp 2-5, 1938.
- 8) 副島ハマ：児童福祉法における保育所の意義，幼児の教育，p 16, 1949.
- 9) 鈴木とく：保育施設と家庭および学校—シンポジウム，幼児の教育，p 45, 1951.
- 10) 森上史郎：保育者の専門性・保育者の成長を問う，発達 83(21)，pp 68-74, 2000.
- 11) 金崎美美子：保育所の機能に関する考察—その歴史と実態をふまえて—，宇都宮大学教育学部紀要第 1 部 第 31 号，pp 107-125, 1981.
- 12) 土田美世子：保育所機能の歴史的変遷と子育て支援保育，京都光華女子大学紀要 43 pp 161-179, 2005.
- 13) 千葉千恵美他：保育所保育士による家族支援—27 例のケース検討会から—，高崎健康福祉大学紀要第 6 号，pp 91-104, 2007.
- 14) 斎藤愛子他：保育所における「気になる」子どもの保護者支援—保育者への質問紙調査より—，小児保健研究 67(6)，pp 861-866, 2008.
- 15) 岩崎美智子他：「剥奪」とのたたかい—保育所保育士による親支援，人間文化研究所紀要 3，pp 1-9, 2009.
- 16) 斎藤知子：保育所における子ども家庭支援に求められる保育士の専門性について，白梅学園大学・短期大学紀要 44，pp 33-46, 2008.
- 17) 久保山茂樹他：「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査，国立特別支援教育総合研究所研究紀要 36，pp 55-76, 2009.
- 18) 岩崎美智子：支援・応援・援助—保育所保育士による親子支援の現場から—，東京家政大学研究紀要第 48 集(1)，pp 49-58, 2008.
- 19) 小川晶：保育所における高学歴・高齢初出産母子に対する支援—母親と保育者の関係構築を基軸として—，保育学研究第 49 巻 1 号，pp 51-62, 2011.
- 20) 木曾陽子：「気になる子ども」の保護者との関係における保育士の困り感の変容プロセス—保育士の語りの質的分析より—，保育学研究第 49 巻 2 号，pp 84-95, 2011.
- 21) 小川晶：保育士の母親支援における母親の肯定感と養育態度の改善との関係 植草学園大学研究紀要第 5 巻，pp 17-23, 2013.
- 22) 厚生労働省編：保育所保育指針解説書，p 15，フレーベル館，2008.

A study of present issues related to parent support in the context of the Japanese nursery schools

Mayumi TAKAHASHI

(Fuji Women's University, Faculty of Human Life Sciences, Department of Early Childhood Care and Education)

This study investigates the present issues related to parent support in the context of the Japanese nursery schools by reviewing past studies on parent support, and how this support has changed over time. Parent support was introduced by the nursery school teachers when nursery schools were first established. However, many current teachers are facing difficulties in providing support to the parents as the expected role of a nursery school teacher changes over times. This trend could be due to the changes in children and parents, which are frequently reported in past studies. And in this study, the author pointed out some duality as the cause of difficulty in providing parent support.